

2023

## 着物のワークショップとパンフレットの提案

Kimono Workshop Inclusive of Printed Materials

AD26 丸山 のぞみ  
指導教員 西野 隆司

### 1. 研究目的

昨今、日本古来の民族衣装である着物、着せてもらうことはあっても実際にその着物を自分で装えない若者が多くなっている。これは、一種のコスプレ化、洋服の普及による着物への関心の薄れなどが着物離れの原因であると考えられる。しかしながら、夏には浴衣、成人式では振り袖を好んで着ることから、若者が絶対的に着物嫌いではないと理解できる。

そこで着物のよさを知ってもらい、現代の若者が手軽に着付けを楽しめる提案を行いたい。

### 2. 調査と分析

15~25歳の女性に「着物は好きか嫌いかな」アンケート調査を行ったところ、ほぼ全員が「好き」と回答した。

また、なぜ着物を着ることができないかという質問に対して、着方がわからない、面倒くさい、疲れるという回答が得られた。

さらに、体験する機会があるとすれば、「浴衣と着物どちらが着たいか」という質問に対して、4割が浴衣、6割が着物という回答を得られた。

### 3. コンセプトの立案

◆『お気に入りを見つける 60分』ということで、好きな着物と好きな帯を組み合わせて自分の好きなコーディネートをする。

◆着付け後自分の好きな事をして、着物を着た事を楽しんでもらい、着物を身近に感じてもらう。

◆ワークショップ内で活用でき、内容が反復できるような簡易パンフレットを配布する。

### 4. デザイン展開

・小道具説明、手順説明、着物選び(15分)

好きな着物を選ぶことにより着物を着ることのモチベーションをあげる。

・着付け(40分)

着付けることは体力を使い疲れるため、なるべく短く疲れないようにする。帯結びも道具をあまり使わず、手間もかからず、崩れてしまっても直しやすい結び方にする。

・写真撮影(5分)

・好きなことをする

着物で好きなことをすることによって着物に対するイメージを改善する。

### パンフレットの内容

着物のイメージとされる堅苦しさ、古さなどを払拭するような「若者に受け入れられる」デザインをイメージした。

・長襦袢の着方

・着物の着方

・帯の結び方

手順はワークショップの内容の確認なのでイラストと簡単な文章の説明だけとする。

第一次検証ではなるべく一人で着付けられるよう説明をしながら体験者本人に着付けさせた。うまく着付けられたが、時間が20分ほど押し、体験者に疲労が見られた。パンフレットを渡し、一人で着付けてみてもらったところ、手順に不備が見つかった。この結果からワークショップ、パンフレットの内容の改善を行った。

### 5. 完成図



### 6. 結論

第二次、第三次検証の結果、ワークショップは手際よく進められ体験者に疲労感を与えず行えたのではないかと感じた。

パンフレットは、ワークショップ内でも活用でき、内容もより濃いものとしたため手順をより細かく説明し、改善した結果、一人でも着られる内容のパンフレットとなった。とくに、体験者からは、着せ替え人形がわかりやすく良いと評価を得られた。

しかし、着物を楽しんでもらうという目的からすると、疲れるという点の問題は克服したといえるが、楽しむまでは到達していない為まだまだデザインの改善の余地があると感じた。

### 文献

・ハクビ京都着物学院、『きもの教本・技術編』、民族衣裳文化普及協会、1979